



水遊びの楽しい夏が来ました。片桐保育園の未満児さんたち

2010年6月定例議会

そこが聞きたい 補正予算	2
常任委員会報告	4
一般質問	6
他議会と交流	9
特集 議会だより	10

なかがわ

No. 81

2010年7月20日発行

議会だより



中川村 議会事務局 <gikai@vill.nagano-nakagawa.lg.jp> wrote:

平成22年度 一般会計補正予算(1号)

総額 7千400万円

6月 定例会

9日～15日

天の中川村(中川村産ブランド)商標登録委託料削除

そこが聞きたい

4年間の任期最後の議会で白熱した討論が行われました。村が進めていた中川産ブランド商標登録(天の中川村)委託料が削除となりました。もう少し時間をかけて検討の必要性を村に求めた結果によるものです。また政府の行政刷新会議による事業仕分け等で大幅に減額された鳥獣害防止対策交付金に対する質問が多く出されました。

議案第4号 平成二十二年補正予算(1号)

問 教育費の時間外手当の減額は 原 勝一議員

教育次長 今年は例年より少なかったためです

問 教育費の時間外手当の更正減が107万円と多いが、特別計画した事業が減つたためなのか。

教育次長 社会教育費の時間外手当の減額ですが、事業が特別減つたと言うわけではなく、例年多いたためにそれを見込んで多く盛つたが、本年は少ない額で済みました。

問 村民グラウンド120万円の工事は 原勝一議員

教育次長 時計の取り替えます

問 村民グラウンドの時計の取り替え工事120万5千円は、時計だけなのか。チャイムなどで関連施設全部へ放送できるものなのか。

教育次長 時計の件は、村民グラウンドのバックネットの所の2面の時計と、文化センターの駐車場の3面のものを、電波時計に変更したものです。



文化センターの3面の時計

問 農産物加工施設の補正増減は 藤川 稔議員

振興課長 事業費が固まらなかったためです

問 農産物加工施設整備事業に係わる地方債補正について、9月、12月、6月と定例会のつど補正(増減)が繰り返されているが、その理由は何か

振興課長 補助事業と村単業に分かれていて、なかなか事業費が固まらなかった。加えて起債対象事業の区分けが難しかった等によるものです。



改築で設備の充実した農産物加工施設

問 村長交際費の減額の理由は 桃澤時江議員

振興課長 例年通りの対応です

問 村長交際費の22万円の結果は、切りつめた結果だと思ふ。社会一般通念上の内容でのつき合いの面で無理をしていないか

総務課長 例年通りの対応です。特に無理はしていません。判断をします。

議案第3号

中川村辺地対策総合計画の策定について

村道北山方飯沼線の改良計画について

高橋昭夫議員

総務課長 地元は特に協議 辺地債で対応していく計画はしていない。地元から改良計画が出されているので

今回過疎債から辺地債に替えた経過を聞きたい

竹沢久美子議員

総務課長 今まで地域から要望があった事業が、村の財政上の事情が理由で出来

辺地対策総合事業の内容

桑原地区 村道大草桑原線
災害防除対策事業

桑原と村の中心を結ぶ、

地域住民の生活の重要な路線、通学バス路線でもある

上北山方地区 飯沼地区

村道北山方飯沼線改良事業
飯沼地区内集落と美里地区を結ぶ重要な道路であり、

通学バス路線でもある。

上北山方地区 村道谷田黒
牛線改良事業

上北山方と美里地区の中心部を結ぶ重要な路線、通

学路でもあり、生活に欠くことが出来ない路線

過疎債から辺地債へ？

過疎債

大変有利と言われる過疎債は、過疎法が6年間延長されて28年3月まで期限が延長されました。中川村も過疎の指定要件内にありますので、今後も6年間は過疎債が使えます。村では過疎地域自立計画を策定し、有効な活用を目指しています。過疎債の特長は補助事業、単独事業のいづれにも充当され、交付税措置は、元利償還金の70%程度を基準財政需要額に算入することとなっています。中川村では多くの事業に過疎債を活用してきました。

辺地債

あまりなじみのない言葉ですが、急に出来た制度ではありません。交付税措置は80%と過疎債よりも有利です。使えるのは国が定める辺地の条件をクリアした地域の事業がなかったので、いままでも使われたことはありません。中川村では、辺地に該当する地域は、桑原・上北山方・飯沼となっています。上北山方は、美里全域ではなく、黒牛・丸尾・西丸尾です。この度、該当地区の整備のために辺地債を利用した総合計画が策定されました。

削除

中川産ブランド(天の中川村)商標登録委託料

もう少し時間をかけて検討が必要

修正案の説明要旨

中川村の農産物や地場産品を、全国的な認知が受けられるようにしたいという考え方に反対するものではありません。

しかしブランドである条件としての、商品管理が十分に検討されていません。

売る側としての、インパクトのあるブランド名で売り出したい気持ちは、勿論

十分理解出来ますが、買う側の立場では、村の予算で

商標登録した、しかも村名まで入れた大変個性的な名

前の物産の品質が、何らの基準のない、生産者のそれ

ぞれの判断にまかせられて

いる物だとは思わないだろうという事です。買う側に

納得してもらえない基準を

設けていくことが可能かどうかの研究も、しなければ

ならないでしょう。ブランド化する限りは、その基準作りは、有る程度クリアし

なければならぬ、重要な

問題の一つであります。

また「天の中川村」というブランド名は、村名と間違えられるという問題があります。方言を使って「お

あがりて 中川村」とか、

あるいはもつと村民の側からの別の発想による、名前

があるかもしれません。村民的な検討が必要です。

予算の額としては19万円

余りと、大きなものではありませんが、問題は非常に

大きいのです。

そのほかにもロゴマーク

や審査基準など、クリアしなければならぬ問題はあ

りますが、中川村の物産を

全国に発信して、認知してもらおうという総論は大賛成です。是非1年ほどの期間を設けての研究を、村を提案者として進めて頂きたい。

会

総務経済委員会

委員長 松下昌嵩

厚生文教委員会

副委員長 高橋昭夫

常任委員会

陳情第4号

「長野県地方税共同化に関し県に意見書を提出することを求める」陳情書

提出者 長野県税金オンブズマン
代表委員 毛利正道

陳情の要旨は、地方税の徴収事務共同化に反対するものですが、各自自治体が地方税滞納の増加傾向に苦慮していること、税の公平性など、現状を考えると共同化はさけられないものとして不採択といたしました。しかし実施に当たっては「適正公正な運用に努め、人権侵害等が生ずることの無いような措置を盛り込むべき」との意見もいただきました。

陳情第5号

「安全・安心な国民生活実現のため、防災・生活関連公共事業予算の拡充と国土交通省の地方出先機関の存続を求める」陳情書

提出者 国土交通省管理職ユニオン中部支部
執行委員長 青山一雄

陳情の趣旨は行政刷新会議の事業仕分けでは、出先機関の組織の廃止とあわせて定員の削減を行おうとしているが、地域住民の安全安心な生活実現のために、防災・生活関連予算の拡充は絶対必要です。これまで

請願第2号

「義務教育費国庫負担制度」の堅持を求める請願書

提出者 中川村公立学校教職員組合
執行委員長 倉澤信二

教育の全国水準や機会均等を確保する義務教育の基盤づくりは国の責務であり、そのために設けられたのが義務教育費国庫負担金制度です。本来は国の財政負担と責任の中で行われるべき制度も現状、実負担率は三分の一に引き下げられ、県への負担金も減額、市町村への

教育の全国水準や機会均等を確保する義務教育の基盤づくりは国の責務であり、そのために設けられたのが義務教育費国庫負担金制度です。本来は国の財政負担と責任の中で行われるべき制度も現状、実負担率は三分の一に引き下げられ、県への負担金も減額、市町村への

請願第3号

「30人学級の早期実現、教職員定数増を求める意見書」提出に関する請願書

提出者 中川村公立学校教職員組合
執行委員長 倉澤信二

審査の過程で、当、中川村では30人学級が自動的に実現しているが、全国レベルではまだ実施されていないところもあり、「1人ひと

請願第4号 「長野県独自の30人学級の中学校全学年への早期拡大と複式学級の解消、県独自に教職員配置増」を求める意見書提出に関する請願書

提出者 中川村公立学校教職員組合
執行委員長 倉澤信二

請願の趣旨は長野県では小学校の30人学級は実現していますが、それ同様に中学校でも30人学級を求めると云うもので、加えて少子化の中に予想される複式学級の増加傾向に対して、県としての独自の複式学級解消措置を考える事と、教職員配置の大幅増を求めるもので審査の結果全員賛成で採択となりました。



一人ひとり行き届いた教育を

請願第5号

「子宮頸がん予防ワクチン接種の公費助成を求め」請願書

提出者 新日本婦人の会中川支部 栗山和子

請願の趣旨は20歳代の女性に多いといわれる子宮頸がんは全国年間死亡者数が昨年約3500人を数えました。日本では昨年12月からワクチンでの予防が認可されていますが、3回の接種

種で4〜5万円と高額のため公的援助を国に求めるといいます。審査の過程で「保険が利かず国で接種の助成をすべきである」との意見があり全員賛成で採択となりました。

陳情第6号

「子ども・障害者などの医療費窓口無料化を求める」陳情書

提出者 新日本婦人の会中川支部 栗山和子

陳情の趣旨は、長野県の福祉医療をいっそう充実させ、県民が安心して医療・福祉を受けられるよう、子どもや障害者などの福祉医療給付制度を現行の自動給付方式から窓口無料化を求めるもので、審査の過程で、「他県では既にやっている所もあり特に問題も無いので賛成」との意見があり全員一致で採択となりました。



子供の医療費窓口無料は可能か

村議から

国・県へ意見書を提出

発議第7号

農業農村整備事業や鳥獣害防止総合対策交付金などの農業予算増額を求める意見書

県へ

発議第8号

国の鳥獣害防止総合対策交付金へ長野県の上乗せ補助を求める意見書

解説

中川村における鳥獣害の被害は年々増大して、農作物への被害は、農業への意欲を奪うほどになっていますが、ただそればかりではありません。人家の軒先にまで出没する鳥獣は、若者の子育てを始め、生活そのものにも影響しています。

こうした状況の中で、国は22年までの時限立法として、防護柵の設置のための特別阻止法により、大幅な補助を約束してきました。中川村では、主に東地区で、大がかりな計画の実現のために、様々な住民の自発的な活動が行われてきました。防護柵は山林の中に設置されるために、大勢の地権者



みんなの努力で、防護柵の計画を進めて来た

の了承を得たり、住民個々の費用負担を決めたり、地区会計からの出費を求めたりしてきました。また防護柵設置の基となる長大な距離の、計測にも苦労しました。22年度の村の当初予算

に計上されて、まさに着工寸前で、国の事業仕分けにより、鳥獣害防止総合対策交付金が大幅に減額となりました。

村の単独事業での取り組みを求める声も大きくなっていますが、国・県の関係者にもその必要性を十分理解してもらうために、議会発議として国・県それぞれに意見書を提出しました。

しかし特に鹿による被害が増大している事から、爆発的な繁殖が予想され、農地を守る事は緊急の課題となつていきます。

防護柵交付金 上伊那への配分 (単位：千円)

市町村名	事業費	要望額	内示予定額
伊那市	90,561	49,728	7,244
辰野町	5,479	3,012	125
飯島町	10,827	5,000	0
中川村	75,590	41,547	6,056
合計	182,457	99,287	13,425

防護柵設置は村単独でも

村長 国・県に要望している



原 勝一議員

やってしまったら、大変もつたない話でありもう少し国、県の動向を見極めて判断していきたいと考えています。

質問 村道の新設改良事業、今年度の道路改良計画で過疎対策事業債と辺地対策事業債の違いは。

総務課長 償還期間は過疎が最長12年で3年の据え置き、辺地は10年と2年で利率は過疎が12年で1%、辺地は10年で0.9%、また交付税の参入率は過疎が70%、辺地は80%で10%辺地債の方が有利です。

質問 有害鳥獣の防護柵設置について。県の内示では、中川村の要望額の4,157万円の内605万円の少額であった。国の事業仕分けや全国的に要望が増えたためと言われている。すでに完成した両サイドにあたる地区は侵入が特にひどいと聞けが村独自の予算を充てる検討はしたか、他に補助対象となる事業は考えられないか。

村長 事業仕分けで減額となったがそれ以上に日本中どこでも鳥獣害には悩んでいます。内示の額は二次で若干の追加があり717万円、ちょうど葛島南部の要望額と同額となっているところです。村としては衆参議員の方にもお願いをしたり、県の農政部長さんにも町村長が揃って行ってお願いをしております。しかし来年度事業で出来るようになれば村の単費で

建設水道課長 今年度は、例年になく多い計画であり遅れることがないように進めたい。

質問 災害対策で危険区域の改修など、どうなっているか。36年災害から早くも50年経過する。住民が安心をして住める村にしたい。

総務課長 重要水防ヶ所は28ヶ所あり、昨年2ヶ所の改修がされ残り26ヶ所になった。

竜東線 飯沼―北組間の整備の考えは

建設水道課長 総合計画に沿って進めたい



藤川 稔議員

質問 竜東線の改良事業で、北の玄関口である飯沼と飯島町側との接続をどう考えているか

建設水道課長 吉瀬から西側に出るという路線変更があったことから、伊南バイパスに係わる本郷から大草へどう接続するか考えていかなければならない。

質問 飯沼―北組間の整備について、村としての取り組み状況は

建設水道課長 目立って竜東線の整備だけに活動したということはないが、機会あるごとに県へはお願いしています。

質問 飯沼地区の方々、竜東線改良促進委員会を立ち上げ、バイパス化早期実現の陳情、具体的なルート設定や用地取得の協力にも取り組んできている。そうした地元への思いを、村はどのように受け止めているか。

建設水道課長 地元総代と共に、

伊那建設事務所を訪問し、そうした内容を要望してきています。第5次総合計画に沿って、地域住民と共に働きかけを行っています。

質問 中川村主要地方道改良促進対策委員会条例に基づく委員会が指定されている。委員会を活用し、促進対策をとるべきではないか。

建設水道課長 現在は休止状態になっていきます。村としては6月中旬に立ち上げをし、意向及び意見をまとめ、竜東線の期成同盟会の組織に上申していきます。

質問 国の登録有形文化財である坂戸橋は、築77年が経ち、生活道路橋としての役目に心配もあるがどうか。また飯沼橋との兼ね合いは。

建設水道課長 坂戸橋は保全をしながら使用していきます。一方飯沼橋は、国道の迂回路として役に立つような橋梁の整備が必要と考えています。



パソコン教室が機能していないのではないか

教育長 十分機能し普通に授業が出来ている



湯澤賢一議員

問 今後の保守は、FAXによるやりとりで、業者とのリモートコントロールで行うと言うことであるが、セキュリティの問題はないのか。またシンクライアントシステムは、学校の授業には適当ではないのではないか。

教育次長 そこは業者との信頼関係でやっています。

問 個人情報問題は曖昧では許されない。第三者の検証もなく、業者だけの信頼関係で良いのか

村長 優秀な軍隊でもハッカーされることもあります。不十分なところはどうしてもあり、職員間でしっかりと運用に努めていく。

問 パソコン教室のパソコンがうまく動かないままに放置されてきたのは何故か。

教育長 100%完璧だとは思っていないが十分に機能して、普通に授業が出来ていると考えています。もし機能しないで授業が出来ないとしたら、放置することはありません。



ずらりとならんだパソコン教室

鳥獣害防護柵 村単独での取り組みを

村長 もう少し国・県の動向をみて判断



竹沢久美子議員

質問 美里地区では、急斜面の農地を70代、80代の方まで草刈り機を使い農地を守っています。しかし、年々シカやイノシシ・サルなどによる被害が増えています。H21年から獣害対策委員による飯沼、美里、北組、中組と地区をまたいでの防護柵の設置計画が住民の合意を得て3月議会で予算化もされ、国の交付金決定で事業スタートができるところでした。事業仕分けで農林水産省は9%、2、255億円が仕分けされ鳥獣害防止対策交付金も30億円が23億円に削減されました。ハード事業の予算額14億円余に対し、全国の要望額が37億円、2.6倍と多く、更に事業仕分けによる減額が事業実施をより困難にしています。事業仕分けと村の事業に対する影響、村単独の取り組みの考えは。

村長 税金の使われ方で国民の注目を集めたこと、使う側、行政サイドの意識の変革といった効果はありました。しかし本来に必要なものは何か、取り組むべきことを深く掘り下げる制度ではありません。防護柵の必要性については誰かが意見は一致しています。国、県の判断が出た時点で村も判断し、国には引き続き強く要望していきます。

質問 4月14日の県からの内示を受けての村の対応は。

振興課長 要望額は大草、葛島で4150万円余で、内示額は605万6千円でした。両地区役員に説明会を行いました。県より11万6千円の追加で717万円余の交付金が決定し、葛島工区はできます。大草工区については国、各議員の皆さんにも折りあるごとに要望活動をしており、全国の状況も見て8、9月頃まで様子を見て対応するというところで了承を得ています。

伊那生田飯沼線と153号線の今後は

村長 地元・村・県の状況を聞きながら対応する



山崎啓造議員

村長 県の皆さんも何らかの改善補強をとっている意識は持っていたらいいと思います。坂戸橋の良さも見て頂き安全快適に通行出来るような整備をお願いしていかねばと思っています。

質問 竜東線飯沼工区一・五車線化工事は本年度で終了です。地元皆さんはバイパス化を望み地区の意見集約も出来用地の目途も付いていると聞きます。地元の皆さんの望み思いをどの様に把握されているか、吉瀬で天竜川西に渡つてしまつたが今後の方向性、進め方はどの様に考えているか。

村長 伊南バイパス工事の進捗状況を見ながら本郷飯沼北組と言う形を色々根回しし、すり合わせ相談している状況です。

質問 国道一五三号線坂戸付近は自分が通行していても非常に危険を感じる場所です。先般の法面崩落時人命に関わる事故でなく幸いでした、法面の吹き付けや法枠の老朽化が危惧されます。道路改良や歩道の未設置区間解消等積極的な要望は。

質問 チャオ周辺整備完了で人物、情報の交流拠点となるよう期待される。村も連携した拠点を生かすような活性化策を打ち出すべきではないか。

村長 基本的な村の役割は活躍出来る環境と舞台を作る事だと考えています。それぞれの皆さんが村外からお客様が来ていただけるとうな工夫をお願いし、ビジネスチャンスはいっぱいあると思いますから営業努力もし、商売上手にやっていたらいいと思います。適切な利潤を上げて後継者に引き渡せるような状況が生まれれば良いと思います。環境整備と情報発信という部分で今後とも継続的な努力をしていきたいと思えます。

天の中川村商標登録の議論が深まっていない

村長 村民への周知は、やや積極的ではなかった



桃澤時江議員

間をにかけて村民の意見を聞いたりして深く議論をすべき。

村長 抽象論でなくて具体的に農業の場合や観光の場合はどうなんだという形で取り掛かっていく方向にしたいです。

質問 「天の中川村」ロゴマーク発想は、素晴らしい観点ですが、村民に対しての浸透や議論の場が深まっています。

村長 村民への周知につきましては、積極的に声をかけた方が良かったのではないかと思っています。商標登録をして権利だけを抑えておきながら使い方を希望者、関心のある方と詰めていきます。

質問 使用者、生産者等ブランドに対する意識の向上・品質・農産物履歴の徹底・マニュアルの文章化や、関係者の集まりをどう構築していくか。

村長 「村全体の名誉を背負っている自覚を持ってやっていただく」この事を基本に、大まかなルールを行政で行い、部会的な形で自主的に決めてやって頂くのがいいのかなと考えています。

質問 村長の思いを、もう少し時

質問 後継者の確保で農家として存続できるような取り組みを、どのように考えているか。

振興課長 毎年意向調査を実施し耕作放棄地の阻止、流動化を図り高齢で耕作が出来ない事など農用地利用改善組合の充実で、課題の解決につなげていきます。

質問 子宮頸ガン予防ワクチンが日本でも昨年末に承認・販売、接種できるようになった。すでに全国的に自治体で公費助成を始めているところもある。村として、①予防ワクチン接種と検診を広報で知らせる。②財政的負担となるワクチン接種に対して補助制度を検討する。③国・県に補助制度の創設を要望すること。

村長 いろいろな意見がありまして、すぐ諸手をあげて取り組む状況ではありません。先行事例の話聞きながら検討していきます。

若者の心をつかむ政治 若者向けアンケート

村長 村民と一緒に模索していきたい



高橋昭夫議員

質問 既存施設の有効活用

あるものを大事に有効に活かす既存の施設の有効活用が求められると思うが

村長 利用頻度の少ないところ、別の使い方を考えたい。

質問 歴史民族資料館について、利用目的をどう捉え施設をどう活かそうとされているか。多面的に村民に役に立つ活用を求めたい。

教育長 資料の保存、展示、参観等が使命で財政事情で無理と思っ
ている。

質問 アンフォルメル美術館

美術館の存在をどう受け止めているか。またどう運営されているか。観光的価値観を高めるために積極的な検討、利活用を進める必要があると思うが。

教育長 収蔵されている絵画、建

物、は村の貴重な財産と受け止める。アンフォルメル中川村美術管理組合に指定管理として運営での制約もあるが総務課の広報、情報などアイデアを出し合ってより多くの人達が足を向けるよう仕組みを考えてまいりたい。

質問 若者視点での生活改善を社会教育の場で考え意識を高めることも大事では。

教育長 大変難しい問題だが生活改善の見直しの必要性を強く思っている。

優勝

伊南市町村議会議員研修会と親睦球技大会から

高橋記

7月2日の午前、千人塚マレットゴルフ場で親睦球技大会を行った。47名が参加し中川チームが念願の優勝を果たした。

午後から研修会を飯島文化館で開き、飯島町出身で「ミヤザワフルート製造株式会社」（埼玉県朝霞市）名誉会長 宮沢正氏の講演、「都市から見た南信州」をお聞きした。

宮沢さんのお話では、信州イメージに南信州・伊那谷のPRが乏しいのではないかと。観光経済70%を占め世界に知られる南アメリカの「コスタリカ」にも勝るこの伊那谷の素晴らしさ魅力をもっと有効に活かすシステムを考えなければと提案された。またふるさと納税制度の活用、住民の意識改革、地域意識を変えらるなどを希望として訴えられた。

行政視察は七久保地区の「信州里の果工房」と「芳和精機株式会社」を訪ねた。両社共に、もの作りに恵まれた環境に感謝され、地元貢献をどう果たすか地場産業の発展なくして地域発展はないと「仕事の確保や取引先の拡大」に夢を広げていた。

議会広報編集委員会
松川町議会広報委員会と
情報交換会

議会広報「議会だより」はどの町村でも発行しています。その議会便りを話題に、隣接する下伊那松川町の議会報編集委員会と情報交換会を5月1日に行いました。

松川町の編集委員は7名で、議会広報の研修を愛知県や静岡県町村に行い、4月号から編集内容を従来ものから大きく変えています。

村民の目線に立ち、如何に議会の内容を簡潔にわかりやすく紹介することが出来るか、中川にとっても共通の課題です。

字数を少なく、見やすく、分かりやすくなどを話題として話し合いました。

中川村は上伊那郡の最南端です。議会、行政共に、もつと郡境を越えた隣接町村との交流を深めえる必要性を感じました。

高橋 記



一步先に行く松川町議会だより

特集

議会だより

今任期中に発行された、議会便りを集めて特集しました。ご愛読に感謝致します。

役場広報から独立しての議会だよりでした。



2008年4月 72号

後期高齢者医療発足が話題になっていきます。

西小学校の茶摘みを表紙に使用しました。



2008年7月 73号

医師の不足と偏在が、大きな問題です。

表紙は東小学校4年生のすべり山です。



2008年10月 74号

天の中川河川公園が完成し、オープンしました。

西小学校のマーチングバンドを表紙に取り上げました



2009年1月 75号

中学校の入学式が表紙を飾りました



2009年4月 76号

シンクライアントシステムの導入が議題になりました。昭和伊南総合病院の改革プランへの意見を掲載しました

男子バレーが大活躍でした。



2009年7月 77号

大不況が襲い、政府の景気対策で、中川村へも臨時交付金で一億七千万円の補助となり、2億4千万円の補正予算となりました。

大草保育園の運動会、子供の元気が村をささえます。



2009年10月 78号

片桐保育園のどんと焼きを取材しました。



2010年1月 79号

大草保育園の卒園式、親も先生も子供もみんな涙…



2010年4月 80号

編集後記

議員定数が16名から6名減の10名になっての4年間でしたが、間もなく議員の任期満了となります。

当初は役場広報へ合併となり、存続が危ぶまれた「議会だより」も、議員の意気により、なんとか持ちこたえることが出来ました。役場は執行機関ですから、役場広報は決定したことの「お知らせ」が主たる任務になるでしょう。議会 は村の事業を決定し、決定したことが目的どおり執行されているかチェックする機関ですから、議会便りは決定までの経過と議論が記事の中心となります。その事から、車の両輪としての議会広報を目指してきました。

現議員による編集は、81号が最後になりますが、是非今後引き継いで、もつと読まれる公報への工夫を続けて頂きたいと願います。ご愛読に心より感謝申し上げます。

編集委員長 湯澤賢一
副委員長 高橋昭夫

原 勝一
松村隆一
藤川 稔